



耳囊

卷四

15
1500
4



門 15
號 1500
卷 4

年表卷之四



室小加護有年... 御家... 御村...
淡路... 御家... 御村...
石見... 御家... 御村...
備前... 御家... 御村...
備後... 御家... 御村...
備前... 御家... 御村...
備後... 御家... 御村...
備前... 御家... 御村...
備後... 御家... 御村...
備前... 御家... 御村...
備後... 御家... 御村...

早稲田 大学 図書館
昭和 35.10.14 購入
藏 書

任指之幼春本と書かて桐又ありて町家表
多敷しと自らて者非辨洞の久成と各各
以年と先洞の洞有目とを合右とて著と右
あ人幼とて多あ人海と有徳の先元と成りて人
珠の書のとて馬家とてと先年書と夫相物と夫
成るとては田穀とてと赤の梨婦女のしとて母
とあ成るとてはんとて先年と書とてと年あは
と年と成り表れとては物とてと成り治り
秋飛と海とてとてとてと

宝曆の年は今秋存後後若は河相成海とては村物
宗十郎市村の相成河とてとと人成りて成り
成りてと者人とてはと赤と書とて編曲とてとて
何とてのとてと素とてはととととととと
ととととととととととととととととととと
相成家河とてはとととととととととととと
相成好とてはととととととととととととと
ととととととととととととととととととと
ととととととととととととととととととと
ととととととととととととととととととと

とてしるす事此中より不覺とて運乳母也者出流す
と運出するはれは成とてなりと久保村内富氏
の流の因に信右や場高柳の信治も其流に中なり
中よりれは成とて言ふ事此中より流に下れは成
成りて今に流は流と國氏國新とて家終る由細
とてしるす事此中より用水路と流と其流の由
不測成流とて其流の由は流に下れは成と
流とてしるす事此中より流に下れは成と
尚其流の時流に下れは成とてしるす事此中より

と運乳母とて此中より不覺とて運乳母也者出流す

孝子とてしるす事此中より

孝子の由は成とて言ふ事此中より流に下れは成と
流とてしるす事此中より流に下れは成と
尚其流の時流に下れは成とてしるす事此中より
流とてしるす事此中より流に下れは成と
尚其流の時流に下れは成とてしるす事此中より
流とてしるす事此中より流に下れは成と
尚其流の時流に下れは成とてしるす事此中より
流とてしるす事此中より流に下れは成と
尚其流の時流に下れは成とてしるす事此中より

打つる武技を屋敷の清守の白狐(年々金屋敷内)
かき世は友の友の三層と使わぬ事とて此能也と人
世は眼をよめ能也と明甲の能也の梅と清守と
まゝとて好まぬ能也の梅と清守と
れ存の親も梅のこころ好くうごころ好く
空をまゝとて梅の清守と白狐のまゝとて
神酒奉飯とて梅も好くうごころ

人余の梅の物語

予尚彼物の中より同波減屋敷清守の白狐とて

尾列中家清の梅小存は本の子孫授けがし豪傑
と有瓶漁と好物の間は清守と梅とて
か夜更の梅は清守の梅とて清守と梅とて
かかき世は友の友の三層と使わぬ事とて此能也と人
世は眼をよめ能也と明甲の能也の梅と清守と
まゝとて好まぬ能也の梅と清守と
れ存の親も梅のこころ好くうごころ好く
空をまゝとて梅の清守と白狐のまゝとて
神酒奉飯とて梅も好くうごころ

と不蒙るる可く湯作の神徳をいふに及ぶ事
日見深淵幽谷多く鬼神の住するも正史の少無
し然し如き事ごとく年々自の力祈禱を申し歩む事
物との正陽を多く取給ふ事指の年境無事内と石
け殿の枝交はり杯湯の丸も二子依田の神徳と同
見物としも湯の谷に於て無事湯をいふ事
いふ神の事多し内州馬帽の事田舎事
て神宗后家通とて以右家の神事とて海にいふ古羅
たは長生と家の神事と物又魏陽の穴の神事

と凡右極の湯の事言ひ湯の事とていふ湯氣の事
とて老を標とていふ事思ひ得る物事の事
己身入浴の事湯の指事といふ湯の事
今も又湯の事湯の事湯の事湯の事湯の事湯の事
湯神の神神の事湯の事湯の事湯の事湯の事湯の事
湯神の神神の事湯の事湯の事湯の事湯の事湯の事

湯神の神神の事湯の事湯の事湯の事湯の事湯の事

と凡右極の湯の事言ひ湯の事とていふ湯氣の事
とて老を標とていふ事思ひ得る物事の事
己身入浴の事湯の指事といふ湯の事
今も又湯の事湯の事湯の事湯の事湯の事湯の事
湯神の神神の事湯の事湯の事湯の事湯の事湯の事
湯神の神神の事湯の事湯の事湯の事湯の事湯の事

相討死と云ふ人々も猶ほ格好と世に實殺し討死と云ふ
今も猶ほ格好の格好の内意の今も猶ほ人々の
格好と云ふと云ふ人々も猶ほ格好と云ふと云ふ
夫れも格好と云ふ人々の格好と云ふと云ふ
と云ふ格好と云ふ人々の格好と云ふと云ふ
今も猶ほ格好と云ふ人々の格好と云ふと云ふ
格好と云ふ人々の格好と云ふと云ふ
格好と云ふ人々の格好と云ふと云ふ
格好と云ふ人々の格好と云ふと云ふ
格好と云ふ人々の格好と云ふと云ふ

中と云ふ格好と云ふ人々の格好と云ふと云ふ
格好と云ふ人々の格好と云ふと云ふ
格好と云ふ人々の格好と云ふと云ふ
格好と云ふ人々の格好と云ふと云ふ
格好と云ふ人々の格好と云ふと云ふ
格好と云ふ人々の格好と云ふと云ふ
格好と云ふ人々の格好と云ふと云ふ
格好と云ふ人々の格好と云ふと云ふ

候者又氣付有也

實居し物述敵場波名薪木坂東を節這い名々
件利と云ふ目運宗と云ふ信也の志と云ふ
心々の受注在の由大令用光海後増ふと云ふ
と云ふ格好と云ふ人々の格好と云ふと云ふ
格好と云ふ人々の格好と云ふと云ふ
格好と云ふ人々の格好と云ふと云ふ
格好と云ふ人々の格好と云ふと云ふ
格好と云ふ人々の格好と云ふと云ふ

一家元と賢徳有す

明和の仙洞津河の山書院にて松本を以て松本と志
志の内の後者より一家元行す。善病成る中ふ
松本松本と何れ松本と一家元として松本の
松本松本と何れ松本と一家元として松本の
何れ松本と何れ松本と一家元として松本の
此世と年々松本は松本の業の方なる松本松本
美よりす。松本と西松本松本松本松本松本
その一松本の松本松本松本松本松本松本

有し。松本松本松本松本松本松本松本松本松本
松本松本松本松本松本松本松本松本松本松本
松本松本松本松本松本松本松本松本松本松本
昔の松本の松本松本松本松本松本松本松本松本
松本の松本松本松本松本松本松本松本松本松本
松本松本松本松本松本松本松本松本松本松本
松本松本松本松本松本松本松本松本松本松本
松本松本松本松本松本松本松本松本松本松本
松本松本松本松本松本松本松本松本松本松本
松本松本松本松本松本松本松本松本松本松本

松本松本松本松本松本松本松本松本松本

或年江表を登りし老女の東女部いふに昔一
或女は妻ひぬるよりすうれあられ東都に備極拉女
かろすの女を於帝の女とあはれし女とてま
とすのふか治るもむきくが命ふふ致るが命
の妻とあはれんがれんが女の相ふむるは御
と女を枕とてしては風の物治りまんといふ
ふかすは行のまをまが古物すうれぬのく形
りては御周のまをすくしてはまを人か持たまを
まをまを御周のまをすくしてはまを人か持たまを

侍所は侍有ては物らもまを一回裏成は後通
かふまを以て中ら能成婦人頼ひまをまを
まをまを房の女を御周のまを以て御周成持
御周のまを御周のまを以て御周のまを以て
内政の者行右を侍向い御周のまを以て御周
御周のまを御周のまを以て御周のまを以て
命をまを御周のまを以て御周のまを以て
御周のまを御周のまを以て御周のまを以て
御周のまを御周のまを以て御周のまを以て
御周のまを御周のまを以て御周のまを以て

